

ふりがな

きむら はじめ

氏名

木村 元

1. 学歴

- 1980年4月 富山大学教育学部卒業
- 1981年4月 静岡大学大学院教育学研究科修士課程入学
- 1983年3月 同上修了
- 1984年4月 東京大学大学院教育学研究科修士課程入学
- 1986年3月 同上修了
- 1986年4月 東京大学大学院教育学研究科博士課程進学
- 1990年3月 同課程単位取得退学

2. 職歴・研究歴

- 1990年4月 四国女子大学家政学部専任講師（93年3月まで）
- 1993年4月 四国大学家政学部助教授（94年3月まで）
- 1994年4月 一橋大学社会学部助教授（2000年3月まで）
- 2000年4月 一橋大学大学院社会学研究科教授（2021年3月まで）
- 2021年4月 一橋大学大学院社会学研究科特任教授

3. 学内教育活動

（A）主な担当講義名

（a）学部生向け

教育思想史、教育と社会、教育の歴史、教育研究法、教育課程編成論、社会研究入門ゼミ、導入ゼミ

（b）大学院

教育の社会史、教育研究方法論

（B）ゼミナール

学部後期、大学院

4. 主な研究テーマ

教育と社会の関係を「人口」、「ペダゴジー」、「境界線」をキーワードに考えてきた。教育は非対称関係のもとの特殊な文化伝達であり、歴史的な構築物である。その教育の中核にある、固有な人間形成の技とでもいえるペダゴジーの性格に注目した研究を進めてきた。その際、国家による管理の制度と意図の歴史だけではなく、人々の生きられてきた歴史過程に注目し、子どもの社会化と人間の自立のさまをなるべく多様な角度からとらえ、「教えー学ぶ」という対象だけではなく、「産み・育てる」など人間形成全体のなかに教育のシステムを位置づけることを目指した。その上に立って、人口問題の枠で教育を捉える視点をもちながら、他方、周辺領域に着目しながら学校体系の機制を検討することで、世界と日本における教育の成立と再生（解体）への過程を探りたいと考えている。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・木村元編『境界線の学校史：戦後日本の学校化社会の周縁と周辺』（編著），東京大学出版会, 2020.11.30
- ・木村元・汐見稔幸編『アクティブ教育学1 教育原理』（共編著），ミネルヴァ書房, 2020.3.30
- ・『教育学をつかむ(改訂版)』（共著），有斐閣, 2019.4.1
- ・M. Tsujimoto & Y. Yamazaki (ed.) *The history of Education in Japan ; 1600-2000* (Routledge Studies in Educational History and Development in Asia) (co-author), Routledge, 2017.3.3
- ・『学校の戦後史』，岩波書店, 2015.3.20
- ・木村元編『教育学（第7版）』（編著），医学書院, 2015.3.15
- ・森川輝紀・増井三夫編『公共性・ナショナリズムと教育(論集現代日本の教育史 第5巻)』（共著），日本図書センター, 2014.1.25
- ・木村元編『近代日本の人間形成と学校—その系譜をたどる』（編著），クレス出版, 2013.3.25
- ・木村元監修『人間形成と社会（人間・社会連関の調整）』（編集），クレス出版, 2012.11
- ・木村元監修『人間形成と社会（地域と学校による人間形成）』（編集），クレス出版, 2012.8
- ・木村元監修『人間形成と社会（学校方式受容の諸相）』（編集），クレス出版, 2012.5
- ・木村元編『日本の学校受容—教育制度の社会史』（編著），勁草書房, 2012.3.30
- ・片桐芳雄・木村元編『일본 교육의 역사 : 사회사적 시각에서』（共編著），ノンヒュン社, 2011.11
- ・駒込武・川村肇・奈須恵子編『戦時下学問の統制と動員—日本諸学振興委員会の研究』（共著），東京大学出版会, 2011.3.25
- ・橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之裕編『青年の社会的自立と教育—高度成長期日本における地域・学校・家族』（共編著），大月書店, 2011.2.18
- ・木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』（共著），有斐閣, 2009.4.20
- ・片桐芳雄・木村元編『教育から見る日本の社会と歴史』（共編著），八千代出版, 2008.12.25
- ・久富善之編『教師の専門性とアイデンティティ』（共著），勁草書房, 2008.6.25
- ・渡辺雅男・渡辺治編『「現代」という環境』（共著），旬報社, 2007.5.10
- ・木村元編『人口と教育の動態史』（編著），多賀出版, 2005.2.28
- ・久富善之編『教員文化の日本的特性』（共著），多賀出版, 2003.2.28
- ・木村元・仲嶺政光編『日本の学校—制度と生活世界（中内敏夫著作集3巻）』（編集），藤原書店, 1999.1
- ・木村元・斉藤里美・田中耕治編『「教室」をひらく（中内敏夫著作集1巻）』（編集），藤原書店, 1998.11
- ・木村元・久富善之・田中耕治編『匿名の教育史』（中内敏夫著作集2巻）』（編集），藤原書店, 1998.1
- ・民間教育史料研究会編『教育科学の誕生』（共著），大月書店, 1997.1.24
- ・牧証名編『公教育の史的形成』（共著），梓書房, 1990.1
- ・寺崎昌男監修『誠之が語る近現代教育史』（共著），第一, 1988.10

(b) 論文

- ・「隠れたカリキュラムとIPE導入の意義：教育のコミュニケーションの構造を踏まえて」『保健医療福祉連携』12巻2号, 79-87, 2019年
- ・「少子高齢化社会と教育の課題—人口変動と空間変容に着目して」『教育社会学のフロンティア 1』1巻, 253-273, 2017年

- ・「生きられた学校と近代学校批判」『近代教育フォーラム』 25号,86-94,2016年
- 「学校の戦後70年-日韓(韓日)の比較史研究」(パクファンボと共著)『日韓歴史共同プロジェクト』 18号,134-162,2016年
- ・「転換期の学力」『東井義雄教育の原点』 ,581-590,2015年
- ・「日本社会における学校の受容と接続問題」 『教育学研究』 ,77巻2号,144-156,2010年 *
- ・ Public Acceptance and Articulation of Schools in Japanese Society: Origins in Education and Society in the 1930
Educational Studies in Japan International Yearbook No.6 6号,81-98,2011年
- ・「教育制度の社会史への覚え書き—<教育と社会の学>の課題とのかかわりで」『<教育と社会>研究』 20号,13-22,2010年
- ・「日本の戦後教育学の展開と課題」『日韓歴史共同研究プロジェクト』 11巻,50-60,2010年
- ・「人間形成の評定尺度と教育論争史研究—国民学校論の検討にむけて」『<教育と社会>研究』 19号,11-22,2009年
- ・「普通教育の再定義への動向と課題」『大学ユニバーサル化時代における中等教育の再定義』 95-114,2009年
- ・ Status, virtue and duty: a historical perspective on the occupational culture of teachers in Japan *Pedagogy, Culture & Society* 15(2), Routledge ,175-184,2007年 *
- ・「教育学における教育史研究の課題—教育目標・評価論に注目して(ノート)」『教育目標・評価学会紀要』 19号,48-55,2008年
- ・「東井義雄の戦中・戦後経験のペダゴジー—戦後教育実践に刻んだもの—」 三谷孝編 『戦争と民衆—戦争体験を問い直す—』 旬報社 ,50-82,2008年
- ・ Three case of the “Postwar” and the positions of educational reform during the occupation period : Toward more detailed historical descriptions of postwar education *International symposium rethinking education under occupation : Japan, Korea and Germany* ,86-90,2008年
- ・「学校化社会への過渡的様態としての「村を育てる学力」—その土壌と葛藤」『<教育と社会>研究』 22号,39-48,2007年
- 「新制中学校における制度化されたペダゴジーをめぐる諸相-1950-60年代の数学教育言説に着目して」(本田伊克と共著)『<教育と社会>研究』 17号 ,19-27,2007年
- ・「メタ・ペダゴジーをめぐる諸問題—人間形成論の新動向とペダゴジー」『<教育と社会>研究』 16巻,57-65,2006年
- ・ The Historical Trend of Teacher Identity in Japan : Focusing on Educational Reforms and the Occupational Culture of Teachers(Co-authored with Y.Iwata) ,*Hitotsubashi journal of social studies* 39巻1号,19-42,2007年
- ・「学校方式の時代：一九二〇～四〇年代の青少年労働を巡る転換の諸相」(高瀬雅弘・富澤智香子と共著)『一橋大学研究年報. 社会学研究』 44巻,281-417,2006年
- ・「1950年代のプラクシスとしての教育の様相-新制中学校における<学校—職業社会>問題に注目して」『<教育と社会>研究』 15巻,53-61,2005年
- ・「民衆心性の歴史的展開と<教育>」(前田晶子、仲嶺政光と共著)『<教育と社会>研究』 13号,29-39,2003年
- ・「教育史研究における生活変動論の可能性」(山田哲也と共著)『<教育と社会>研究』 12号,67-72,2002年
- ・「教育調査としてのTIMSS—学力評価論からカリキュラム評価論へ—」(北林雅洋らと共著)『教育目標・評価学会紀要』 12号,1-15,2002年
- ・「TIMSSの学力観の検討—学力の国際比較とは何か」(斉藤里美らと共著)『言語と文化』 2号,1-33,2002年
- ・「社会変動と北方教育：前郷時代の佐々木太一郎に注目して」(富澤智佳子と共著)『一橋論叢』 127巻2号,125-143,2002年
- ・「歴史研究の対象としての「教育経験」」『年報 日本現代史』 7号,341-355,2001年

- ・「1930-40年代の社会過程と教育・教育学」『日本の教育史学』 44号,226-233,2001年
- 「1920年代における教育目標・評価問題の諸相—『教育の世紀』誌上の論争に注目して」『<教育と社会>研究』 11号,47-54,2001年
- ・「新しい時代の学校システムを考える」『東北教育学会研究紀要』 5号,43-72,2001年
- ・「1930—40年代初頭日本義務制初等学校の動向と再編の課題：初等教育の変容と中等学校入試改革の動向に注目して」『一橋大学研究年報 社会学研究』 38巻,211-256,2000年
- ・「桐原葆見 労働心理学の戦時下における展開—<教育と社会>の学の胎動に関する諸動向」(前田晶子と共著)『<教育と社会>研究』 10号,65-73,2000年
- ・「1930-40年代教育における制作的認識の諸相」『一橋論叢』 121巻2号,188-204,1999年
- ・「「学び」論への視座—社会的歴史的背景との関わりで」『教育目標・評価学会紀要』 8号,1-9,1998年
- ・「教育課程改革の現代的な争点：教育目標・評価論の視点から」『一橋論叢』 118巻4号,582-600,1997年
- ・「北方教育と教育科学運動」『一橋論叢』 114巻2号,234-252,1995年
- ・「教育研究における歴史的アプローチについて」『一橋論叢』 113巻4号,479-493,1995年
- ・「教育の歴史社会学について」『教育社会学研究』 57号,96-99,1995年
- ・「自由教育派の教育学と国民学校論—長田新の教育学における「教授」と「錬成」—」(『日本の教育史学』 教育史学会紀要第33号,98-111,1990.10) *
- ・「商売の「神」福助の心性史考(障害児教育史研究への一視点)」(『生む・育てる・教える匿名の教育史4 企業社会』藤原書店 pp.87-100 1994.3)
- ・「内申書の歴史—戦前における導入と展開—」(『教育目標・評価学会紀要』 3号 教育目標・評価学会 ,1-5, 1993.9)
- ・「「受験知」の生成と浸透」(寺崎昌男編『近代日本における知の配分と国民統合』 第一法規 ,258-271,1993.6)
- ・「1920年代旧制高等学校入試における「受験知」の様相—入試講評に注目して—」(『四国大学紀要』 第1巻 (A),91-100,1993.3)
- ・「1920年代中等学校入学者選抜の実態に関する一考察—1923年度兵庫県中等学校入学選抜試験に関する調査を事例に—」(『四国女子大学紀要』 第11巻2号,213-226,1992.3)
- ・「<入学試験問題>の史的展開—戦前東京における中学校入学選抜の変遷を中心に—」(『教育方法史研究』 第4号 東京大学教育方法研究室,117-149,1992.3)
- ・「入試による学力規定に関する考察—1930年代中学校入試における国史科の場合—」(『教育方法史研究』 第4号 東京大学教育方法研究室 ,151-165, 1992.3)
- ・「日本の近代小学校と中等学校進学—東京市公立進学有名校の変化の事例に即して—」(所澤潤と共筆)(『東京大学教育学部紀要』 第27巻 ,331-351,1987)

(c) その他

(書評等)

- ・(新刊紹介) 駒込武編著『生活綴方で編む「戦後史」—<冷戦>と<越境>の1950年代—』(岩波書店,2021.10.1), 『日本の教育史学』 通巻40号,2021.10.1
- ・(書評) 金智恩著『『総力戦体制化の<教育科学研究会>—生活教育とカリキュラムの再編成』 (,2020.7), 『日本教育史研究』 通巻40号,2021.8.31
- ・(書評) 岩田一正著『教育メディア空間の言説実践：明治後期から昭和初期までの教育問題の構成』 (世織書房,2018.2), 『日本の教育史学』 通巻62号,2019.10.1
- ・(書評) 吉川卓治著『「子ども銀行」の社会史—学校と貯金の近現代』 (世織書房,2016.11), 『図書新聞』 通巻3287号,2017.1.21

- ・(書評) 小林千枝子著『戦後日本の地域と教育—京都府奥丹後における教育実践の社会史—』(学術出版会, 2014.9), 『日本教育史研究』 通巻 35 号, 2016.9.30
 - ・(書評) 青木利夫・柿内真紀・関啓子編著『生活世界に織り込まれた発達文化—人間形成の全体史への道』(東信堂, 2015.7.10), 『<教育と社会>研究』 通巻 25 号, 2015.12.14
 - ・(書評) 越川求著『戦後日本における地域教育計画論の研究—矢口新の構想と実践』(すずさわ書店, 2014.2), 『日本の教育史学』 通巻 58 号, 2015.10.1
 - ・(新刊紹介) 江口潔著『教育測定の社会史—田中寛一を中心に』(田研出版, 2010.8), 『日本の教育史学』 通巻 54 号, 2011.10
 - ・(書評) 小山静子・太田素子編著『「育つ・学ぶ」の社会史—「自叙伝」から』(藤原書店, 2008.9), 『教育社会学研究』 通巻 85 号, 2009.11.30
 - ・(新刊紹介) 大西建夫・堤清一編著『国立の学校』(校倉書房, 2007.3), 『教育学研究』 第 75 巻第 2 号, 2008.6.30
 - ・(書評) 小針誠著『教育と子どもの社会史』(梓出版, 2007.5), 『図書新聞』 通巻 2832 号, 2007.8.4
 - ・(新刊紹介) 田中耕治編著『人物で綴る戦後教育評価の歴史』(三学社, 2007.4.16), 『教育展望』 2007 年 10 月号
 - ・(書評) 小山静子・菅井鳳展、山口和宏編著『戦後公教育の成立』(世織書房, 2005.3.31), 『教育社会学研究』 通巻 79 号, 2006.12.10
 - ・(書評) 木村元編著『「人口と教育の動態史」書評へのリプライ』(多賀出版, 2005.2.28), 『日本教育史研究』 通巻 25 号, 2006.8.25
 - ・(書評) 松塚俊三・安原義仁編著『国家・共同体・教師の戦略』(昭和堂, 2006.2.25), 『比較教育社会史研究会通信』 通巻 5 号, 2006.5.15
 - ・(書評) 笠間賢二著『地方改良運動期における小学校と地域社会』(日本図書センター, 2003.11.1), 『日本歴史』 通巻 680 号, 2005.1.1
 - ・(新刊紹介) 成田忠久監修『手紙で綴る北方教育の歴史』(教育史料出版会, 1999.5), 『教育学研究』 第 67 巻第 1 号, 2000.3
 - ・(書評) 小林千枝子著『教育の自治の心性史』(藤原書店, 1997.10), 『教育』 1998 年 5 月号, 1998.5
 - ・(書評) 上平泰博他著『少年団の歴史—戦前のボーイスカウト・学校少年団』(萌文社, 1996.4), 『東京』 通巻 158 号, 1996.4
- [辞書・辞典等の項目執筆]
- ・日本教育社会学会編『教育社会学事典』, 丸善出版, 2018.1.31 (執筆項目: 学校という社会的装置, 370-371 頁)
 - ・吉田裕ほか編『アジア・太平洋戦争辞典』, 吉川弘文館, 2015.10.28 (執筆項目: 城戸幡太郎ほか)
 - ・教育科学研究会編『現代教育のキーワード』, 大月書店, 2006.5.19
 - ・日本史広辞典編集委員編『日本史広辞典』, 山川出版社, 1997.10.1
 - ・久保義三他編『現代教育史事典』, 東京書籍, 2001.12
 - ・日本史広辞典編集委員会編『日本史小辞典』, 山川出版社, 2001.5.1
 - ・天野正輝編『教育課程』, 明治図書, 1999.5
 - ・近代日本社会運動史人物大事典編集委員会編『日本社会運動史人名事典』, 日本アソシエート社, 1997.1
- [研究・調査報告書]
- ・木村 元編『日本における学校化社会の形成過程—その基礎的研究』(編著), 日本学術振興会研究費補助金研究成果報告書, 2015.3
 - ・木村 元編『1930 年代の社会と教育関係構造の史的特質—教育学、教員文化、教育実践に注目して』(編著), 日本学術振興会研究費補助金研究成果報告書, 2011.3

- ・木村 元編『若年労働市場の成立と教育学および教育実践の動向—1930—50年代の日本社会と教育』（編著），日本学術振興会研究費補助金研究成果報告書, 2007.3
- ・木村 元編『社会変動と教育実践・教育学研究構造に関する社会史的研究』（編著），日本学術振興会研究費補助金研究成果報告書, 2004.3
- ・木村 元編『1930—40年代の教育学の新動向とその社会的基盤に関する研究——〈教育と社会〉の学の形成に注目して』（共著），文科省科学研究費補助研究報告書, 2002.3
- ・木村 元編『戦前の初等教育の変容と中等学校入試改革に関する実証的研究——戦時下「総合判定法」の検討を中心として』，文部省科学研究費補助研究報告書, 1999.3
- ・教育学説史研究会編『日本諸学振興委員会の研究—戦時下における教育学の転換—』 東京大学教育学部 1991.8(「日本諸学振興委員会という組織」pp.12-23 「教育 本質論と学校論—学校認識の転換を中心に—」 pp.163-175 「むすび」 pp.258-264)

[小文]

- ・「問われる公教育の基盤— 技術革新のインパクト」『教職研修』 2021.12
- ・「公教育の責任をめぐって—技術革新のインパクトが浮かびあがらせているもの」『教職研修』 2022.1
- ・「人間形成と社会：学校・地域・職業」 クレス出版パンフレット 2012. 5
- ・「成城学園時報」不二出版パンフレット 2017. 5
- ・「家庭のための教育手引集—朝日新聞社編」クレス出版パンフレット 2017.5
- ・「『教師の教育学』解明の資料群」 『特別支援・特別ニーズ教育の源流第一巻（鈴木治太郎の教育改革と適能教育論）』 緑蔭書房パンフレット、2009.11.30
- ・「東井義雄を通して考えたいこと—教育の社会史からの接近」『白もくれん』 29号, 東井義雄記念館, 2008.12.15
- ・「部分的に導入される相対評価を考える」『アゴラ』 6号 一橋大学大学教育研究開発センター 2003.10
- ・「教育課程審議会答申をどのように捉えるか」『教育と評価』 6号.1-3, 2002.7
- ・「60年代より貫かれた中内教育研究の柱」『中内敏夫著作集月報』（7巻）藤原書店, 6-8, 2000.11
- ・「『総合』を捉える視点」（『日本教育史往来』 128号, 6-7, 2000.10.31
- ・「中教審答申「初等中等教育と高等教育の接続について」をどのように捉えるか—到達評価研究との関係で—」（北林雅洋、斎藤里美と共同）『到達度評価研究』 29号, 2-6, 2000.6
- ・「論評」（前田一男「戦時下教育実践の史的研究——東金小学校・国民学校を事例として—」『日本教育史研究』 第14号 1995. 8
- ・「学校をめぐって」（徳島新聞ネットワークあい 53号 93.8.1)
- ・「教養について—あるいは大学図書館への誘い—」（『図書館だより』 四国大学図書館）第5号 1993.4 p.6
- ・「論評」（米田俊彦「両大戦間における中等教育の実相」（『日本教育史研究』 第10号 1991.9） PP.39-41
- ・「両親再教育協会」（中内敏夫監修『〈教育〉—誕生と終焉—』藤原書店 1990.6） pp.178-179
- ・「特集戦時下の或る教師集団・教育「革新」の岐路」（『彷徨月刊』 第5巻第12号 1989.12） pp.15-16
- ・「『誠之が語る近現代教育史』の刊行について—大学と地域学校の協力の成果—」（『文京の教育』 217号 文京区 1989.1.10)

[資料集/インタビュー記録等]

- ・『朝日新聞社編 /家庭のための教育手引集』全6巻(解説) クレス出版 2017. 5
- ・日本教育学会特別課題研究委員会『戦後教育学の遺産』の記録』（市川昭午・竹内常一・堀尾輝久）（資料集 NO.3） 2015年8月
- ・日本教育学会特別課題研究委員会『戦後教育学の遺産』の記録』（新堀通也・佐々木享）（資料集 NO.2） 2014年8月
- ・日本教育学会特別課題研究委員会『戦後教育学の遺産』の記録』（大田堯・竹内常一）（資料集 NO.1） 2013年

8月

- ・中内敏夫「<教育>の理論とは何かーフォークペダゴジーとメタ・ペダゴジー」『<教育と社会>研究』13号 ,1-17,2003年(松田洋介、大西公恵と共同)
- ・「前田捨松氏文庫」(東京大学教育学部図書室蔵 全32巻)解説ならびに目録 1988 .12
- ・「年表・資料」([所澤潤、鈴木そよ子と共同] 寺崎昌男監修『誠之で語る近現代教育史』第一法規 pp.1-149 1988.9)
- ・「第二編」 「錬成・修練関係目録」([前田一男、鈴木そよ子と共同] 戦時下教育研究会 『「総力戦と教育」の総合的研究 資料集二』) 1984.8
- ・「教育学者、教育研究者自伝・伝記・評伝一覧 ー近代日本教育学説史文献目録 ー」(小熊伸一と共筆) (東京大学教育哲学教育史研究室『研究室紀要』第14号 pp.136-152 1988.4)

[シンポジウム記録等]

- ・「大学ユニバーサル化時代の新しい教育接続ーアメリカの事例を中心にしてー(4提案へのコメント)」『教育制度学会紀要』9号 ,96-98,2002.11
- ・「シンポジウム 新しい時代の学校システムを考えるー学力問題」(柴田義松、長崎栄三と)『東北教育学会紀要』5号,43-72,2002年2月 pp43-72
- ・「シンポジウム 評価の在り方ー新たな評価の理念とその方法を問う」(有本昌弘、田中耕治、小竹悟と) (『教員養成大学・学部教官集会報告書』(2001年度) ,36-56.

本研究科着任後の研究活動(着任 1994年)

[着任後の国内外学会発表、基調報告・招待講演には「*」のマークをつけてください]

国内外学会発表

- ・「転換期の「日本の学校」ー共同性の歴史的展開を踏まえて」, 第6回 HU・福祉国家セミナー, 2019.10, 一橋大学経済研究所
- ・“ Research Trends on Education in Japan”, Invitation Program on Global Education for CNU Graduate students, 2019.1, Chungnam National University
- ・「人類史的社会変動と教育の課題(課題研究)」, 教育目標・評価学会, 2018.11, 和光大学 *
- ・「AI インパクトと教育 ー「日本の学校」再考ー」, 教育目標・評価学会, 2017.6, 東洋大学 *
- ・「東井義雄のあゆみと学校経験ー戦前と戦後」, 日本教育学会, 2016.8, 北海道大学 *
- ・「戦後の学校の展開と人づくりの課題」, 教育目標・評価学会第26回大会, 2015.10, 京都教育大学 *
- ・「戦後社会・学校・教育学ー近代教育学批判の位置をめぐって」, 教育思想史学会第25回大会シンポジウム, 2015.9, 慶應義塾大学 *
- ・「戦後の教育政治を問い直す(討論者)」, 教育社会学会第67回大会, 2015.9, 駒澤大学 *
- ・「学校の戦後70年ー日韓(韓日)の比較史研究」, 日韓歴史シンポジウム, 2015.8, 韓国・光州技術科学院
- ・「戦後の地域社会と東井教育」, 東井義雄教育塾, 2014.8, 豊岡市立但東市民ホール
- ・「学校関係史料と歴史研究」, 鹿児島大学教育学部, 2014.3, かごしま県民交流センター
- ・「特別課題研究・研究の課題とこれまでの経過」, 日本教育学会, 2013.8, 一橋大学 *
- ・「学校の受容過程と『教える』ということ」, 教育目標・評価学会, 2012.11, 東洋大学 *
- ・「教育目標・評価論における歴史的研究の課題」, 教育目標・評価学会, 2009.11, 京大会館 *
- ・「教育の歴史をどう描くかー物語としての教育史・人口動態の教育史ー」, 東北大学高等教育開発推進センターー教育史特別セミナー, 2008.12, 東北大学 *
- ・「日本の戦後教育学の展開と課題」, 日韓歴史共同研究プロジェクト, 2008.8, 対馬市交流センター
- ・「教育学における教育史研究の課題」, 教育目標・評価学会, 2007.12, 大阪経済大学 *

- ・「占領期教育を問う—日本、韓国、ドイツ（コメント）」、教育史学会国際シンポジウム,2007.9, 四国学院大学 *
- ・「日本の教職アイデンティティの歴史的形成と現代的状況」、国際シンポジウム「教育改革と教師」、2005.11, 一橋大学
- ・「課題研究/日本の教育接続を巡る課題」、教育目標・評価学会,2004.10, 滋賀大学 *
- ・「課題研究/新興教育の社会史研究」、教育目標・評価学会,2001.10, 作新学院大学 *
- ・「シンポジウム/新しい時代の学校システムを考える」、東北教育学会,2001.3, 東北大学 *
- ・「シンポジウム教育史における第二次世界大戦」、教育史学会,2009.9, 埼玉大学 *
- ・「課題研究/学力の国際比較とはどういうことか」、教育目標・評価学会,2000.10, 長野県立短大 *

(a) 国内研究プロジェクト

- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究(挑戦的(萌芽)))「先端技術導入による公教育の構造変容とマイノリティの包摂可能性に関する総合的研究」(研究分担者),日本学術振興会,2021-7-9-2024-3-31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「教育と子どもの生活を支えるケアの葛藤の諸相:1930~50年代の生活教育を巡って」(研究代表者),日本学術振興会,2021-4-1-2024-3-31
- ・日本学術振興会科学研究費(挑戦的(萌芽))「教員のインフォーマル・ネットワークの機能に関する研究」(研究分担者),日本学術振興会,2020.4.1-2023.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「地方における新制中学校の設立・展開過程と地域社会の関係構造に関する歴史的研究」(研究分担者),日本学術振興会,2020.4.1-2023.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「戦後日本の民間教育運動の社会史—教育実践をめぐる教師の協働性に着目して—」(研究分担者),日本学術振興会,2020.4.1-2023.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「学校の戦後史に関する基礎研究:新たな戦後教育史叙述に向けて」(研究代表者),日本学術振興会,2018.4.1-2021.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究A)「『日韓相互認識』研究の新展開」(研究分担者),日本学術振興会,2018.4.1-2023.4.1
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究B)「小学校区・中学校区を単位とする地域社会の文化構築過程に関する歴史的研究」(研究分担者),日本学術振興会,2017.4.1-2022.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「戦後開拓地における学校を基盤とした地域文化の形成過程に関する歴史的研究」(研究分担者),日本学術振興会,2017.4.1-2020.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「日本の学校化社会成立の諸相—学校システム「周辺」部に注目して」(研究代表者),2015.4.1-2018.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究B)「小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的研究」(研究分担者),日本学術振興会,2014.4.1-2017.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「日本における学校化社会の形成過程—教育制度の社会史の視点から」(研究代表者),日本学術振興会,2012.4.1-2015.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究B)「飯田下伊那における学校史料と地域社会に関する基礎的研究」(研究分担者),日本学術振興会,2010.4.1-2014.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究A)「『日韓相互認識』研究の深化のために」(研究分担者),日本学術振興会,2010.4.1-2015.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「1930年代の社会と教育関係構造の史的特質」(研究代表者),日本学術振興会,2008.4.1-2011.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究C)「戦時下における学問の統制と動員」(研究分担者),日本学術振興会,2007.4.1-2009.3.31

- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究 A), 「日本・朝鮮間の相互認識に関する歴史的研究」(研究分担者), 日本学術振興会, 2006.4.1-2009.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究 B), 「日本の学校風土・慣習の形成、展開と現代的再編課題」(研究分担者), 日本学術振興会, 2006.4.1-2008.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究 B), 「大学ユニバーサル化時代における中等教育の再定義」(研究分担者), 日本学術振興会, 2006.4.1-2009.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究 C), 「若年労働市場の成立と教育学および教育実践の動向」(研究代表者), 日本学術振興会, 2004.4.1-2007.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(萌芽研究)「日本型チャータースクールと公教育行財政様式の変容」(研究分担者) 日本学術振興会, 2003.4.1-2004.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究 A), 「教育改革時代における教師の位置と文化:その再編の社会的・歴史的・比較論的研究」(研究分担者), 日本学術振興会, 2003.4.1-2006.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究 B), 「日本の学校慣行・行事・儀礼の社会史的・文化論的研究」(研究分担者), 日本学術振興会, 2002.4.1-2005.3.31
- ・日本学術振興会科学研究費(基盤研究 C), 「社会変動と教育実践・教育学研究構造に関する社会史的研究—総力戦体制期の教育と社会」(研究代表者), 日本学術振興会, 2001.4.1-2004.3.31
- ・文部省科学研究費補助金, 「プランゲ文庫雑誌目次データベース作成」(研究分担者), 文部省, 2000-2005
- ・文部省科学研究費補助金(基盤研究 B), 「マス高等教育段階における新しい教育接続の研究」(研究分担者), 文部省, 1999-2003
- ・文部省科学研究費補助金(基盤研究 C), 「1930-40年代の教育学の転換とその社会的基盤に関する研究——〈教育と社会〉の学に注目して」(研究代表者), 文部省, 1998-2000
- ・文部省科学研究費補助金(萌芽的研究), 「歴史的人口学(デモグラフィ)のデータベース作成準備研究」(研究分担者), 文部省, 1998-1999
- ・文部省科学研究費補助金(基盤研究 B), 「教員文化の日本の特質——その社会史的・社会的解明」(研究分担者), 文部省, 1998-2000
- ・文部省科学研究費補助金(基盤研究 C), 「戦前の初等教育の変容と中等学校入試改革に関する実証的研究——戦時下『総合判定法』に注目して」(研究代表者), 文部省, 1996-1997
- ・文部省科学研究費補助金(基盤研究 C), 「『多文化教育』をめぐる諸概念の再検討——〈国際化社会〉における教育改革のための基礎研究」(研究分担者), 文部省, 1996-1997

(b) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

日本教育学会オンライン座談会「機関誌改革と教育学研究の課題：学術メディアの役割」2021.6.

日本教育学会連続オンライン座談会「パンデミックと教育—学びを支えるために何が必要か」2020.6~7
全4回

第1回 「新型コロナウイルス禍の中の学校を考える—提言第Ⅱ部を素材に—」2020.6.29

第3回 「教育と不平等—新型コロナウイルス禍をふまえて—」2020. 7. 20

- ・「教育史とはどのような学問か—「60周年誌」の検討を踏まえて」教育史学会第62大会シンポジウム,一橋大学,2018.9.29
- ・「中内敏夫氏の教育学の現代的移送—変動する社会の中で」第27回教育目標・評価学会公開シンポジウム,2016年,2016.11.27,一橋大学
- ・日本教育学会特別課題研究：「戦後教育学の遺産の記録—担い手への聞き書き調査を中心に1」 第72回日本教育学会 2013.8.30 一橋大学

- ・日本教育学会特別課題研究：「戦後教育学の遺産の記録―担い手への聞き書き調査を中心に2」 第73回日本教育学会 2014.8.24 九州大学
- ・日本教育学会特別課題研究：「戦後教育学の遺産の記録―担い手への聞き書き調査を中心に」 第74回日本教育学会 2015.8.29 お茶の水大学
- ・日本教育学会（東京地区）「戦後教育実践史の意義を考える」2009年度日本教育学会,2009.4.25

B. 受賞

平成25年度科研費審査委員表彰（独立行政法人日本学術振興会理事長 2013.11.13）

6. 学内行政

（A）役員・部局長・評議員等

- ・評議員（2013年4月～2015年3月）
- ・一橋大学役員補佐（企画・評価担当、2010年12月～2012年11月）

（B）学内委員会

主なもの

- ・一橋論叢編集委員（1995～6年度）
- ・入学試験制度委員会委員（1997～1998年度）
- ・小平分校移行計画検討委員会委員（1998年度）
- ・全学四年一貫教育委員会委員（1999年度）
- ・全学学部教育委員会委員長（1999年度）
- ・大学院教育専門委員（2008年～2009年度）
- ・大学院入試幹事長（2009年度）

（C）課外活動顧問

- ・弓道部部长（2017年4月～）

7. 学外活動

（a）他大学非常勤講師など

- 1994年4月 早稲田大学第一文学部非常勤講師（2006年3月まで）
- 2004年4月 東京大学大学院教育学研究科非常勤講師（2004年9月まで）
- 2006年4月 中央大学大学院文学研究科非常勤講師（2008年3月まで）
- 2008年4月 東京大学大学院教育学研究科非常勤講師（2008年9月まで）
- 2008年8月 宮城教育大学大学院非常勤講師（集中講義）
- 2009年4月 東京大学大学院教育学研究科非常勤講師（2009年9月まで）
- 2010年4月 東京大学大学院教育学研究科非常勤講師（2010年9月まで）
- 2013年10月 立教大学大学院文学研究科非常勤講師（2014年3月まで）

- 2014年8月 京都大学大学院教育学研究科非常勤講師（集中講義）
- 2016年4月 中央大学大学院文学研究科非常勤講師（2018年3月まで）
- 2019年4月 東洋大学大学院文学研究科非常勤講師（2019年4月～現在にいたる）
- 2020年8月 大阪大学人間科学部非常勤講師（集中講義）
- 2021年4月 東京大学教育学研究科非常勤講師（2021年9月まで）
- 2021年8月 大阪大学大学院人間科学研究科非常勤講師（集中講義）

(b) 所属学会および学術活動[役職歴のある場合は、役職名と在任期間を注記]

- ・日本教育学会理事(2008～、法人理事 2011～)
- ・日本教育学会副会長（2017.9～2019.8）
- ・日本教育学会機関誌編集委員長（2017.9～2019.8）
- ・日本教育学会研究推進委員会委員長（2019.9～2021.8）
- ・教育史学会理事(2007～現在にいたる)
- ・教育史学会機関誌編集委員長 2012.10～2013.9)
- ・教育目標・評価学会理事(1997～現在にいたる)
- ・教育目標・評価学会紀要編集委員長（2004～2005年度）
- ・教育目標・評価学会代表理事（2011.11～）
- ・教育社会学会大会理事（2016.12-2017.11）

(c) 公開講座・市民講座

- ・一橋大学社会学部連続市民講座「学校の戦後史—周縁の学校から考える—」2016年10月15日 一橋大学
- ・一橋大学開放講座「教育と社会の未来～学校の戦後史」 2016年5月19日 如水会館
- ・一橋大学社会学部連続市民講座「少子化—歴史の中の教育環境」2006年9月16日 一橋大学
- ・一橋大学公開講座・教育改革の焦点 2004年5/8-6/5(久富善之、関啓子、中田康彦、北村文美と) 一橋大学
- ・一橋大学公開講座・日本と世界の教育問題と教育改革 1996年9/8-10/26(藤岡貞彦、久富善之、関啓子、藤田和也と) 一橋大学

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

北多摩高校(2006.6.29)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

- ・国立市社会教育委員(2001-2003)
- ・国立文化・スポーツ財団評議委員（2003.4-2011.3）
- ・国立公民館運営審議会委員（2006.11-2010.10）
- ・日本学術振興会特別研究員等審議会専門委員(2007.8-2009.7)
- ・日本学術振興会国際事業委員会書面審査委員(2007.8-2009.7)
- ・国立市情報公開及び個人情報保護審議会委員(2011.4-2015.3)
- ・日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（この間）
- ・厚生労働省看護基礎教育検討会議委員(2018.4-2019.9)
- ・社会福祉法人 くにたち子どもの夢・未来事業団評議委員（2019.4～）

9. 一般的言論活動 [新聞やテレビ・ラジオなど各種メディア]

- ・「教育をめぐるこの10年の変容とは」『書齋の窓』, 有斐閣学術センター, 2019.7
- ・「教育と社会の未来」『如水会会報』, 2016.8.1
- ・「4月入学の学校文化」『HQ』, 一橋大学HQ編集部, 2012.6
- ・「教育学と「教職教育学」をつなぐために」『書齋の窓』, 有斐閣学術センター, 2009.6.1
- ・「近代家族が選んだ対応」『読売新聞』, 2006.9.22 朝刊
- ・「文部省の学力調査結果をどう受け止めるか」『学校運営研究』, 明治図書, 2003.6.1
- ・「解説ニュースの焦点/重要になる教育目標構造の解明」『週刊教育資料』, 日本教育新聞社, 2000.10.23
- ・「教育のポイント/「基礎・基本」を考える」『プレス』, 日本標準, 1998.6